

2001年度第12回物学研究会レポート

林真理子氏（作家、エッセイスト）ご講演
「林真理子の自己プロデュース」から

2002年3月14日



BUTSU GAKU
物学研究会
SOCIETY OF RESEARCH & DESIGN

2001年度の物学研究会の締めくくりは、作家・エッセイストの林真理子さんを講師にお招きしました。今回のテーマは「自分をプロデュースする」でした。コピーライターから作家へ、結婚されて妻そして母へと、林さんの限りないチャレンジ精神と行動の軌跡を語っていただく中で、「自分デザイン」、「自分というプロジェクトを遂行する」について考えてみたいと思います。

以下は講演の骨子をまとめたものです。林真理子さんをもっと知りたい方は『編集会議』の2002年4月号「林真理子全1巻」をお読みください。

林真理子氏（作家、エッセイスト）ご講演

「林真理子的自己プロデュース」から

100パーセント計算高い人は、世の中に受け入れられない。

世間一般では、林さんは「幸運を呼び、幸運をバッチリつかむ、強運な女」と思われている。幸運を呼ぶためには「計算高さ」が必要な気もするが、実際の林さんは無意識で無邪気なところが7割で、冷静に自分を見詰めることができる客観性が3割であると自己分析している。林さんによると、全てにおいて計算高い人は世の中に受け入れられない。無自覚で無邪気で無意識な部分が大半だが、冷静な判断ができることがリーダーの素質、だそうだ。

田舎の娘から脱皮できたのは、人並みはずれた空想力のお陰。

林さんは大学卒業後も就職できず、3年以上も植毛師のアシスタントのアルバイトをしていた。そんな不遇？な時代に、林さんは持ち前の空想力と文章力を発揮できる職業の存在を知る。根性無しの林さんにもできそうな「たった1行で商売になるコピーライター」という仕事だ。早速コピーライター養成講座に参加。空想力と想像力をフル稼働して「人とは違うこと」を課題として提出、見事2番の成績で卒業する。そしてコピーライターとしての一步を踏み始める。

コピーライターからエッセイストへ

2番で卒業した林さんは小さい挫折を克服し、コピーライターブームに乗って「時の人」となった。特に「人気女性コピーライター」としてメディアに多く登場した。そんな時に『主婦の友』の編集者から出版の話が舞い込んだ。ここで林さんの客観的に判断するという3割部分の資質が働いた。この1冊で有名人の名を不動のものとするためには悪魔に魂を売ってよい。「普通の女性ではとても書けない、下品な女の本音」をまとめよう。これが林さんの処女出版『ルンルンを買っておうちに帰ろう』で、文庫も含めて100万部のベストセラーとなった。

人気エッセイストから直木賞作家へ

人気エッセイストへと転身した林さんにまたまた転機がやってきた。「小説を書いてみたら」という誘いがあったのだ。林さんは「何百枚も原稿を書く気力も耐力も根性もありません」と躊躇すると、「30枚のエッセイを1章として、10章書けば300枚。私という一人称表記を彼女とかキリコとかの3人称にすれば、すぐに小説になりますよ」と編集者は力づけてくれた。ここに至って、林さんの7割を占める無邪気で無自覚な気質が働く。編集者殿の教えを忠実に実行して完成したのが処女小説『星に願いを』だった。その後も『星影のステラ』『葡萄が目にしみる』『胡桃の家』とたて続けに直木賞候補に、そして4回目のノミネートで第94回直木賞を受賞する。作品は『最終便に間に合えば』『京都まで』だった。

普通の人々が欲しいものは10倍欲しい。

作家、エッセイストとして多忙を極める林さんは自分のことを「とても凡庸で、普通の人々が欲しいものを私は10倍欲しい、欲望に関して屈折した部分が全くない」と分析する。夫も欲しい、子供も欲しい、家も建てたい、お金も欲しい、美しくなりたい。だから頑張ってきた。人間関係では出版業界を超えた異業種の友人知人も多く、彼らとの付き合いの中から小説のストーリーや人物像へのヒントを得ることも多い。現在は子育てにどうしても時間を取られてしまうが、これも新しい世界と割り切って楽しんでいるようだ。作家にとってはどんな経験も無駄にはならない。「林さんって物好きで、何にでも飛びつくよね」と批評されても、いつも時代にフィットした軽快さ持ちつづけること　これが林さんのセルフマネジメントの「基本」らしい。

以上

講師プロフィール

林真理子 さん（作家、エッセイスト）

1954年生まれ。1976年日本大学芸術学部卒業後、コピーライターとして活躍。

1981年東京コピーライタークラブ新人賞受賞後、フリーランスに。

83年初著書『ルンルンを買っておうちに帰ろう』（主婦の友社）発行を機にエッセイスト、作家として活動を始める。86年『最終便に間に合えば』『京都まで』で第94回直木賞を受賞。95年『白蓮れんれん』で柴田錬三郎受賞。1997年『みんなの秘密』で吉川英治文学賞を受賞。2000年直木賞選考委員就任。主な著書に『ミカドの淑女』、『不機嫌な果実』、『美女入門』のシリーズなど。

2001年度第12回物学研究会レポート

林真理子氏（作家、エッセイスト）ご講演
「林真理子の自己プロデュース」から

編集=物学研究会事務局

文責=関 康子

[物学研究会レポート]に記載の全てのブランド名および
商品名、会社名は、各社・各所有者の登録商標または商標です。
[物学研究会レポート]に収録されている全てのコンテンツの
無断転載を禁じます。